

▲▼▲第41回クリエイティブサロン (2016年1月9日)開催報告▲▼▲

第1部講演会:「今、求められるアクティブ・ラーニングとは」

講師:河本達毅 (文部科学省高等教育局大学振興課)



アクティブ・ラーニング(以下、AL)の必要性と重要性は疑う余地がないが、今後全ての学校段階で実践していくためには、ALとは何であるのかを正しく認識しなければならない。それは新奇な教育方法ではなく、新規の教育内容ではない。

社会人基礎力や基礎的・汎用的能力といったジェネリック・スキルを携え、学校段階で得た様々な知識や理解を最大限活用し、知識基盤社会で活躍できる人材を育成するためにALが有効であり、学生がそれらを身に付けることを意図した教育の仕掛けが必要である。このことがALの目的であり、奇抜な授業スタイル等を取り入れることが目的ではない。

このような教育の仕掛けは、従来からも十分意識されてきており、とりわけ大学段階においては、勉強から学問、パッシヴ・ラーニングからALに転換する段階として、これまでも取り組まれてきた。この「既に取り組まれてきた」という認識が、今後ALを普及していくにあたり重要なことである。これまでの専門分野の学問の教授から抜本的に転換するものではなく、これまでの工夫や仕掛けを、より意図的に、より明示的にすることから始めるものである。

より意図的に、より明示的に。教育課程、授業計画、成績評価等のあらゆる局面で学生が主体的に学び、参画し、省察する仕掛けを用意することが重要であり、個別の授業を超えた取組が求められる。「何を教えるのか」から「学生が何を身に付けるのか」に転換することで、学生に求めるコンピテンシーを軸としたチーム・ティーチングが求められるのであって、このことにおいては、確かにAL時代は大学の在り方には新規性を要求しているのかも知れない。

いずれにせよ、ALは大学における新時代を意味するものではなく、大学が本来あるべき姿、学問を主体的に追求する場を再確認することを意味するのではないだろうか。本来あるべきもの、という視点で、今後各所における活発な議論を期待したい。(記事:河本達毅)

第2部ワークショップ:「人生を前向きに変えるアイデアマラソン発想システムのワークショップ」

講師:樋口健夫(アイデアマラソン研究所所長・日本創造学会理事)



2016年1月9日(土)午後、日本経済大学大学院にて第41回クリサロが開催された。会員のみならず一般非会員にも開放されている人気のクリサロであるが、年初の忙しい時にも関わらず大盛況の開催となった。

第1部では、文部科学省大学振興課の河本達毅氏による「今、求められるアクティブ・ラーニングとは」の講演会が開催された。アクティブ・ラーニングは、今後の日本の教育の一つの大きな柱になるもので、今回は大学に絞っての素晴らしい講演であった。特に大学関係者には、大いに参考になった。

後半、樋口健夫(筆者)のアイデアマラソン発想システムのワークショップが行われた。今回はアクティブ・ラーニングの特集で、前半の河本氏の説明にもあったが、電気通信大学などで長年採用実施されてきたアイデアマラソンが、まさにアクティブ・ラーニングの実施例の一つであるとのことで、今回ワークショップを行うこととなった。3時間のワークショップでは、アイデアマラソンは、その大きな効果である以下の①～⑤についてご理解いただいたことと思う。

- ①人生と仕事のすべてに思考+書留めが基盤
- ②思考を書き留める習慣
- ③毎日性のパワーを最大利用
- ④継続力を応用して偉業を達成
- ⑤発想蓄積効果を活用

参加者全員が、無事にアイデアマラソンを開始し、実際にノートに書き始められた。参加者には、アイデアマラソン研究所がアイデアマラソンの継続でサポートを提供する予定である。希望者は下記にご連絡を。

<http://www.idea-marathon.net> 懇親会も、例によって大賑わいであった。

(記事:樋口健夫)